

## X V 除 草 剤

### 1 水稻の除草

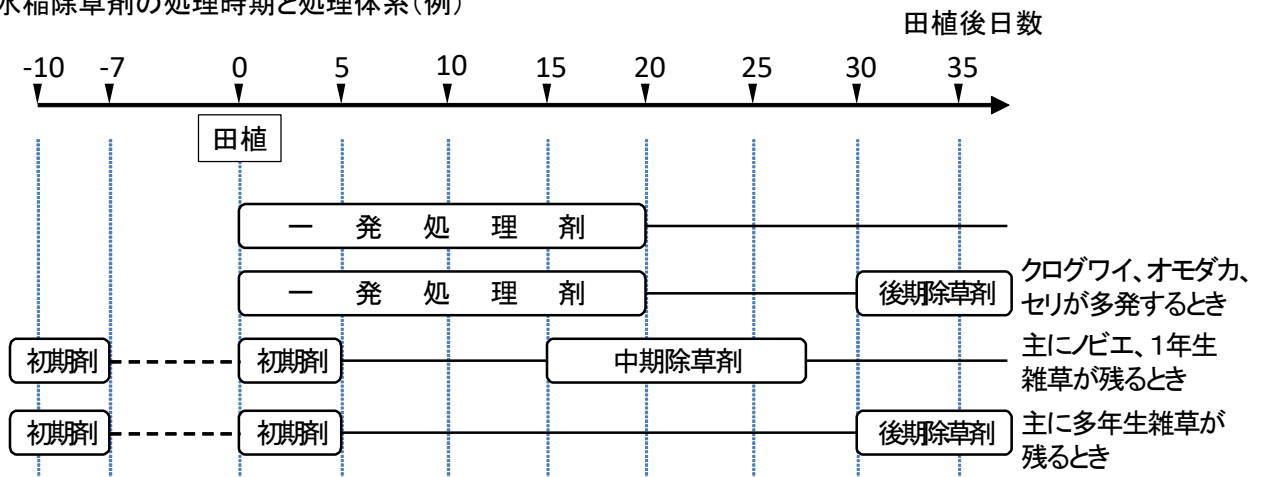
#### (1) 一般的な注意事項

- ・ 生わら、堆きゅう肥など有機物を施用する場合は、冬春期の耕起を早めに行い、すき込む。
- ・ 田畑輪換などの耕種的防除方法を取り入れる。

#### (2) 水稻除草剤を使用するにあたっての注意事項

- ・ 代かきは、水面に田面が露出せず、ほ場が均平になるように丁寧に行う。
- ・ 除草剤によって、土質や減水深が指定されている場合があるので注意する。
- ・ 河川等水系への薬剤の流出を防ぐため、散布後7日間はたん水状態を保ち、落水、かけ流しを行わないこと。降雨等によるオーバーフローにも注意する。田植前の使用でも7日間の滞水が求められており、代かき時施用する場合は、田植の7日以上前に代かき・薬剤処理を行って自然減水させる必要がある。代かき～田植までに7日間の期間を取れず、用水路に落水してから田植を行う場合は田植後の散布を検討する。
- ・ 薬害の恐れがあるため、散布後の水田水を他の作物にかん水しない。
- ・ 有効成分としてベンスルフロンメチルなどのスルホニルウレア（SU）系化合物を含む剤は、れんこん、くわい、せり、いぐさなどの生育を阻害する恐れがあるので、これらの生育期に隣接する水田ではできるだけ使用を避ける。
- ・ 体系処理を行う場合は、同一成分を含む薬剤の重複使用に注意する。
- ・ 砂質土壌や漏水田、強還元田、ガス発生田、未熟有機物多施用田、軟弱苗及び徒長苗を移植した水田、極端な浅植え、深植え田での使用は薬害に注意する。

水稻除草剤の処理時期と処理体系(例)



注1) 除草剤処理時期の目安と体系処理の関係を示したもので、具体的な処理時期については、各薬剤の登録内容を厳守する。

注2) 中期除草剤は、必ず初期除草剤との体系処理を行う。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

**(3) 主な剤型と散布法、注意事項****ア フロアブル剤（略号はFL）**

有効成分の微粒子を界面活性剤で水に分散させた液状の製剤。懸濁性は水和剤より優れる。

**(ア) 原液たん水散布（手振り散布）**

- ・ 使用前に容器をよく振る。
- ・ 散布前に水深を3～5cmにし、あぜから容器を振って散布する。
- ・ ほ場が大きい場合はあぜからだけでなく、中央付近を歩いて散布する。
- ・ 散布者への薬剤付着を防ぐため、必ず腰の位置より下方で容器を振り、風向きに注意する。

**(イ) 水口施用**

- ・ ほ場への入水時に水口へ除草剤を施用し、流入水とともにほ場全体へ拡散させる。
- ・ 処理時には必ず水尻を止め、田面水が通常のたん水状態に達したら、必ず水を止める。
- ・ 水があふれ出ないように、また少なすぎて田面が露出しないよう注意する。

**イ 粒剤**

細粒となるように製剤化しており、希釈せずにそのまま使用する。

以前は10aあたり3kgを散布する3キロ粒剤が主流であったが、現在は有効成分を3倍に濃縮させた省力的で取り扱いの楽な1キロ粒剤が主流となっている。

**(ア) 散布**

- ・ 散布ムラがないようにする。1キロ粒剤は3キロ粒剤と間違えて使用量を誤らないよう十分に注意する。特に初めて使用する場合は、散布器具の吐出量を確認調整し、まき過ぎや不均一にならないよう慎重に散布する。
- ・ 病害虫用の箱施用剤と誤らないよう十分に注意する。

**ウ ジャンボ剤（パック剤）**

粒剤を水溶性の膜で包装した製剤。水田に投入すると包装は水に溶けて有効成分が溶出する。

**(ア) 投げ込み**

- ・ 完全にたん水された状態（水深5～7cm以上）で水口・水尻を止め、所定のパック数をパックを破らずに投げ込む。
- ・ パックの包装は水溶性なので、ぬれた手で直接扱ったり、降雨で破袋することがないように注意する。
- ・ 漏水田・かけ流し田では使用できない。
- ・ 藻やウキクサが多発している水田では拡散が不十分となり、効果の低下や薬害の可能性があるため使用しない。もしくは藻に対する除草剤を使用して藻を除去してから使用する。

**エ 豆つぶ剤**

豆つぶ程度の製剤を10aあたり250gを投げ込むと水面に浮かんで速やかに拡散する。

つぶが水面を拡散するので散布ムラを気にする必要がない。

粒剤、フロアブル剤、ジャンボ剤の特長を兼ね備えながら、軽量・省力的な製剤。

**(ア) 散布**

- ・ 手散布または、ひしゃく状の器具や動力散布機を用いて散布する。
- ・ やや深めのたん水状態（水深5～6cm以上）で水口・水尻を止め散布する。
- ・ 藻やウキクサが多発している水田では拡散が不十分となり、効果の低下や薬害の可能性があるため使用しない。もしくは藻に対する除草剤を使用して藻を除去してから使用する。

近年増えてきたドローン（無人航空機）散布には1キロ粒剤、フロアブル剤、豆つぶ剤のうち「無人航空機による散布」に登録のあるものを用いる。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

**(4) 水稻除草剤の種類**

水稻の除草剤は、残効が長い**初・中期一発処理剤**、植代（代かき）時～田植前後に使用する**初期除草剤**、田植後 20 日前後に使用する**中期除草剤**、有効分げつ終止期～幼穂形成期前に使用する**後期除草剤**等がある。従前は初期剤と中期剤または後期剤との体系処理を行っていたが、近年は初・中期一発処理剤のみによる省力的な雑草防除が一般的である。

**(5) 難防除雑草の対策**

**ア SU 抵抗性雑草**

多成分の一発処理剤にはベンスルフロンメチルなどのスルホニルウレア (SU) 系の成分が含まれているものが多い。SU 系の成分は、主に広葉雑草とカヤツリグサ科雑草に効く成分として含まれ、低薬量で広い殺草スペクトルを有することや、イネ科作物との選択性を有することなどから、1980 年代後半の発売以来、農家の救世主として広く使用されてきた。

しかし、同系統の成分を含む除草剤の連年使用により、SU 系成分に対して抵抗性をもつ雑草が生き残り、発生が拡大し問題となっている。1995 年の北海道のミズアオイでの確認を皮切りに全国で確認され、府内でも SU 抵抗性のホタルイやコナギの発生が確認されている。

表 1 SU 系成分と抵抗性が確認されている水田雑草

SU 系成分	アジムスルフロン、イマゾスルフロン、エトキシスルフロン、シクロスルファミロン、チフェンスルフロンメチル、ニコスルフロン、ハロスルフロンメチル、ピラゾスルフロンエチル、フラザスルフロン、ベンスルフロンメチル、メトスルフロンメチル、リムスルフロン等
SU 抵抗性が確認されている主な草種	アゼナ、アメリカアゼナ、タケトアゼナ、アゼトウガラシ、イヌホタルイ、コナギ、ミゾハコベ、ミズアオイ、キクモ、キカシグサ、オモダカ、台湾ンヤマイ、スズメノテッポウ、ウリカワ、ヘラオモダカ、マツバイ、スズメノカタビラ、タイヌビエ等

**イ SU 抵抗性雑草の対策**

- SU 抵抗性が疑われる雑草が残った場合は、必ず中・後期剤を処理して密度を下げる。
- SU 抵抗性雑草にも効果のある成分を含む除草剤か SU 成分を含まない除草剤を使用する。
  - ・ 近年発売された除草剤は、ほとんどに SU 抵抗性雑草にも効果がある成分が配合されている。
  - ・ 商品によって有効成分の含有量は異なる。含有量の違いで効果に差が出ることもあるので、なるべく有効成分が多く含まれている剤を選択する。
- 同じ除草剤を複数年にわたって連用しない。
- 一発処理剤のみの防除を行っているほ場では、初期剤と中・後期剤の体系処理、または一発処理剤と後期剤の体系処理に切替える。
- 代かきや田植えを行う場合は、雑草種子の移動を防ぐために SU 抵抗性雑草の発生が疑われるほ場を最後にする。
- 除草剤を処理する際は、適用範囲のうちで雑草葉齢が小さい早期に処理する。
- 処理適期は対象とする草種や使用する薬剤によって異なる。
- 代かきから除草剤処理までの間隔が空いてしまう場合は初期剤を処理して、雑草の発生を抑制しておく。

注 1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注 2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注 3: 二重下線は SU 系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

## ウ 近年問題になっている雑草

近年、オモダカやクログワイなどの多年生雑草の発生が問題となっている。これらは土壌中の塊茎と呼ばれる地下茎から発生する。水稻の栽培期間を通じて次から次へと発生し、除草剤の効果が十分に発揮できないことが多く難防除雑草と呼ばれている。

一発処理剤でオモダカやクログワイに対しても登録されている剤は多いが、一発処理剤だけでは効果が十分ではないことが多い。状況に応じて後期剤との体系処理を行う。また前作においてベンタゾン等を含む後期剤を処理することで、予め密度を低下させておくことも効果的である。この他に、秋～冬期にプラウ耕を行う、田畑輪換を行うなどの耕種的防除法を組み合わせることも重要である。なお、SU系除草剤の使用を止めると、オモダカやクログワイの発生が増加することがあるので注意が必要である。

また地表を這うように畦畔から水田に侵入してくるキシウズメノヒエ、アゼガヤも強害雑草として問題になっている。本草はまず畦畔で繁茂するので畦畔の除草が肝心である。

## (6) 初・中期一発処理

### ア 初・中期一発処理剤使用上の一般的な注意事項

(ア) 薬剤の持続期間が比較的に長いので、適切に処理すると中・後期除草剤との体系処理の必要がなく、1回の処理で除草が行え、経済的かつ省力的である。

(イ) 一発処理剤としての能力を最大限に発揮させるためには、最適処理時期に処理することが重要である。処理時期は、移植後日数ばかりでなく、代かき後日数も影響するので、できるだけ対象とする雑草の葉齢（生育程度、大きさ）をもとに判断することが望ましい。

※近畿の普通期栽培での移植後のノビエ葉齢の目安は、6日後で1.5葉期、9日後で2葉期、11日後で2.5葉期、13日後で3葉期である（植調協会調査、植代から移植までを3日とした場合）。

(ウ) 広葉雑草に対しては、処理時の雑草の葉齢が適用の範囲内であっても、やや大きいときは完全枯死に至らない場合があるが、抑制型の成分の効果で、雑草害の観点からは問題にならないことが多い。雑草の状態をよく観察した上で、中期・後期剤の使用を検討する。

(エ) クログワイ、オモダカ、セリなど難防除雑草に対しては、十分な効果を示さないことがあるので、必要に応じてそれらに効果のある後期除草剤と組み合わせて体系処理する。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

★ 以下の除草剤は近畿中国四国地域、普通期栽培（移植水稻）の登録内容を抜粋して掲載

なお、農薬メーカーに処理適期の限度が設定（処理葉齢・時期の限度等）されている対象雑草については、併せて記載している。

示した除草剤は一例であり、試験結果やR7年の府内の出荷実績等を総合的に考慮して選定した。

イ 初・中期一発処理剤（フロアブル）の例

散布にあたっては、注意事項を守ること。

使用時期に「移植時」が無い剤は田植時に同時施用できないので注意すること。

農薬名 (成分)	成分数	使用量 (/10a) 使用回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>トップガンR</b> <b>フロアブル</b> ブロモブチド 17.0% ペントキサゾン 2.8% <u>ベンスルフロンメチル</u> 1.3% ピリミノバックメチル 0.83%	4	500ml 1回	原液たん水散布：移植直後～ノビエ3葉期 （移植後30日まで） 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(3), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ウリカワ(2), ミズガヤツリ(2), ヘラオモダカ(2), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生始期), クログワイ(発生前), オモダカ(発生始期), シズイ(草丈3cm) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	原液たん水散布または田植同時散布機で施用
<b>サラブレッドKAI</b> <b>フロアブル</b> ピラクロニル 3.80% <u>イマゾスルフロン</u> 1.70% オキサジクロメホン 0.57%	3	500ml 1回	原液たん水散布または無人ヘリコプターによる滴下または水口施用：移植直後～ノビエ2.5葉期 （移植後30日まで） 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ウリカワ(2), ミズガヤツリ(2), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生前～再生始期), オモダカ(発生前～発生始期), クログワイ(発生前～発生始期), コウキヤガラ(発生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	原液たん水散布または無人ヘリコプターによる滴下または水口施用または田植同時散布機で施用

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用にあたっては抵抗性発現に注意してください。

— 除草剤 —

農薬名 (成分)	成分数	使用量 (/10a) 使用回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>カチボシフロアブル</b>  イプフェンカルバゾン 5.0% テフリルトリオン 4.0% <u>ベンスルフロンメチル</u> 1.0%	3	500ml  1回	原液たん水散布または無人ヘリコプターによる 滴下または水口施用： 移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで） 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ウリカワ (2), ミズガヤツリ(2), ヒルムシロ(発生期), セリ (再生前～再生始期), オモダカ(発生前～発生始 期), クログワイ(発生前～発生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離 (発生前)	原液たん水散布または無人ヘリコプターによる滴下または水口施用または田植同時散布機で施用
<b>キマリテフロアブル</b>  テフリルトリオン 6.0% イプフェンカルバゾン 5.0%	2	500ml  1回	原液たん水散布または無人ヘリコプターによる 滴下または水口施用： 移植直後～ノビエ3葉期（移植後30日まで） 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(3), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(3), ヘラオモダ カ(3), ミズガヤツリ(3), ウリカワ(3), クログワ イ(発生始期), シズイ(草丈3cm), オモダカ(発生 始期), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離 (発生前)	原液たん水散布または無人ヘリコプターによる滴下または水口施用または田植同時散布機で施用
<b>バッチリフロアブル</b>  ブロモブチド 16.3% ピラクロニル 3.7% <u>イマズスルフロン</u> 1.7%	3	500ml  1回	原液たん水散布または水口施用： 移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで） 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ミズガヤツリ(2), ホタル イ(2), ヘラオモダカ(2), ウリカワ(2), ヒルムシ ロ(発生期), セリ(再生前～再生始期), オモダカ (発生始期), クログワイ(発生始期), コウキヤガ ラ(発生始期), シズイ(草丈3cm) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離 (発生前)	原液たん水散布または水口施用または田植同時散布機で施用

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

ウ 初・中期一発処理剤（粒剤）の例

散布にあたっては、注意事項を守ること。

使用時期に「移植時」が無い剤は田植時に同時施用できないので注意すること。

農薬名 (成分)	成分数	使用量 (/10a) 使用回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<p><b>ジェイソウル</b> <b>1キロ粒剤</b></p> <p>ピラゾレート 6.0% シクロピリモレート 3.0% フェントラザミド 3.0%</p>	3	1kg 1回	<p>たん水散布または無人航空機による散布：移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）</p> <p>田植同時散布機施用：移植時</p> <p>1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草</p> <p>多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ヘラオモダカ(2), ミズガヤツリ(2), ウリカワ(2), オモダカ(発生前～発生始期), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生前～再生始期), シズイ(草丈3cm), エゾノサヤヌカグサ(2)</p> <p>その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)</p>	たん水散布または無人航空機による散布または田植同時散布機で施用
<p><b>コメット1キロ粒剤</b></p> <p>テフリルトリオン 2.0% ピラクロニル 2.0% <u>メタゾスルフロン</u> 0.60%</p>	3	1kg 1回	<p>たん水散布または無人航空機による散布：移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで）</p> <p>田植同時散布機施用：移植時</p> <p>1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草</p> <p>多年生広葉雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ウリカワ(2), ミズガヤツリ(2), ヘラオモダカ(2), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生始期), オモダカ(発生始期), クログワイ(発生始期), コウキヤガラ(草丈10cm), シズイ(草丈3cm), ナガエツルノゲイトウ(再生始期)</p> <p>その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)</p>	たん水散布または無人航空機による散布または田植同時散布機で施用
<p><b>キマリテ1キロ粒剤</b></p> <p>テフリルトリオン 3.0% イプフェンカルバゾン 2.5%</p>	2	1kg 1回	<p>たん水散布または無人航空機による散布：移植直後～ノビエ3葉期（移植後30日まで）</p> <p>田植同時散布機施用：移植時</p> <p>1年生雑草：ノビエ(3), 水田1年生雑草</p> <p>多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(3), ミズガヤツリ(3), ヘラオモダカ(2), ヒルムシロ(発生期), クログワイ(発生始期), オモダカ(発生始期), ウリカワ(3), セリ(再生始期), シズイ(草丈3cm)</p>	たん水散布または無人航空機による散布または田植同時散布機で施用

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用にあたっては抵抗性発現に注意してください。

— 除草剤 —

農薬名 (成分)	成分数	使用量 (/10a) 使用回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>スラッシュャ粒剤</b>  ピラゾレート 4.0% プロモブチド 2.0% プレチラクロール 1.5% ジメタメトリン 0.2%	4	3kg  1回	たん水散布：移植直後～ノビエ2.5葉期 (移植後30日まで) 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ウリカワ(2), ミズガヤツリ(2), ヘラオモダカ(2), ヒルムシロ(発生期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生始期)	たん水散布または田植同時散布機で施用
<b>エンペラー1キロ粒剤</b>  フェンキノトリオン 3.0% ピラクロニル 2.0% ピリミノバックメチル 0.75%	3	1kg  1回	たん水散布または無人航空機による散布：移植直後～ノビエ3葉期(収穫60日前まで) 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(3), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(3), ウリカワ(3), ミズガヤツリ(5), ヘラオモダカ(3), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生期), オモダカ(発生始期), クログワイ(発生前), コウキヤガラ(発生始期), ナガエツルノゲイトウ(再生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生盛期)	たん水散布または無人航空機による散布または田植同時散布機で施用
<b>カラット400FG</b>  テフリルトリオン 5.0% ピラクロニル 5.0% <u>イマズスルフロン</u> 2.25%	3	400g  1回	たん水散布、たん水周縁散布または無人航空機による散布：移植直後～ノビエ2.5葉期(移植後30日まで) 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ヘラオモダカ(2), ミズガヤツリ(草丈15cm), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生期), ウリカワ(3), クログワイ(発生前～発生始期), オモダカ(発生前～発生始期), コウキヤガラ(発生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	たん水散布、たん水周縁散布または無人航空機による散布
<b>ルンバ楽粒</b>  プロモブチド 36% オキサジクロメホン 2.4% フロルピラウキシフェンベンジル 1.8%	3	250g  1回	たん水散布、たん水周縁散布、水口施用または無人航空機による散布：移植直後～ノビエ2.5葉期(移植後30日まで) 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ウリカワ(2), ミズガヤツリ(草丈15cm), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生期), オモダカ(発生始期)	たん水散布、たん水周縁散布、水口施用または無人航空機による散布

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

エ 初・中期一発処理剤（ジャンボ剤）の例

散布にあたっては、注意事項を守ること。

農薬名 (成分)	成分 数	使用量 (/10a) 使用 回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>エンペラージャンボ</b>  フェンキノトリオン 12.0% ピラクロニル 8.0% ピリミノバックメチル 3.0%	3	10パック (250g)  1回	移植直後～ノビエ3葉期（移植後30日まで） 1年生雑草：ノビエ(3), 水田1年生雑草 多年生広葉雑草：ウリカワ(3), オモダカ(発生始期), クログワイ(発生始期), コウキヤガラ(発生始期), シズイ(発生始期), セリ(再生期), ヒルムシロ(発生期), ヘラオモダカ(4), ホタルイ(3), マツバイ, ミズガヤツリ(5), ナガエツルノゲイトウ(再生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	パックのまま投げ入れ
<b>キマリテジャンボ</b>  テフリルトリオン 10.0% イプフェンカルバゾン 8.3%	2	10パック (300g)  1回	移植直後～ノビエ3葉期（移植後30日まで） 1年生雑草：ノビエ(3), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(3), ヘラオモダカ(2), ミズガヤツリ(3), ウリカワ(3), クログワイ(発生始期), オモダカ(発生始期), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生始期), シズイ(草丈3cm)	水口施用またはパックのまま投げ入れ
<b>バッチリLXジャンボ</b>  プロモブチド 22.5% ピラクロニル 5.0% <u>イマゾスルフロン</u> 2.25% オキサジクロメホン 0.75%	4	10パック (400g)  1回	移植直後～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで） 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ヘラオモダカ(2), ウリカワ(2), ミズガヤツリ(2), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生前～再生始期), オモダカ(発生前～発生始期), クログワイ(発生前～発生始期), コウキヤガラ(発生始期), シズイ(草丈3cm)	パックのまま投げ入れ
<b>ジェイソウル ジャンボ</b>  ピラゾレート 13.3% シクロピリモレート 6.7% フェントラザミド 6.7%	3	10パック (450g)  1回	移植後1日～ノビエ2.5葉期（移植後30日まで） 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ヘラオモダカ(3), ミズガヤツリ(3), ウリカワ(2), オモダカ(発生前～発生始期), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生前～再生始期), シズイ(草丈3cm), エゾノサヤヌカグサ(2) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	パックのまま投げ入れ

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用にあたっては抵抗性発現に注意してください。

農薬名 (成分)	成分 数	使用量 (/10a) 使用 回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>カチボシジャンボ</b>  イプフェンカルバゾン 8.3% テフリルトリオン 6.7% <u>ベンスルフロンメチル</u> 1.7%	3	10パック (300g)  1回	移植直後～ノビエ2.5葉期 (移植後30日まで) 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ミズガヤツリ(2), ウリカワ(2), クログワイ(発生前～発生始期), オモダカ(発生前～発生始期), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生前～再生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	パックのまま投げ入れ
<b>ウィニングラン ジャンボ</b>  プロモブチド 18.0% イプフェンカルバゾン 5.0% <u>ベンスルフロンメチル</u> 1.5%	3	10パック (500g)  1回	移植直後～ノビエ2.5葉期 (移植後30日まで) 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ヘラオモダカ(2), ミズガヤツリ(2), ウリカワ(発生始期), オモダカ(発生始期), クログワイ(発生始期), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生前～再生始期), シズイ(草丈3cm) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	水口施用 またはパ ックのま ま投げ入 れ
<b>クサトリーDXジャンボ L</b>  フェントラザミド 7.5% プロモブチド 15.0% <u>ベンスルフロンメチル</u> 1.27%	3	10パック (400g)  1回	移植後3日～ノビエ2.5葉期 (移植後30日まで) 1年生雑草：ノビエ(2.5), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(2), ミズガヤツリ(2), ウリカワ(2), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生始期) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	パックのまま投げ入れ
<b>銀河ジャンボ</b>  ダイムロン 25.0% ピラクロニル 5.0% <u>メタゾスルフロン</u> 2.5%	3	10パック (400g)  1回	移植後5日～ノビエ3葉期 (収穫60日前まで) 1年生雑草：ノビエ(3), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(3), ウリカワ(3), ミズガヤツリ(3), ヘラオモダカ(2), ヒルムシロ(発生期), セリ(再生始期) オモダカ(矢尻葉3), クログワイ(草丈30cm), コウキヤガラ(草丈30cm) シズイ(草丈20cm) その他：アオミドロ・藻類による表層はく離(発生前)	パックのまま投げ入れ

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

(7) 体系処理

ア 初期除草

(ア) 初期除草剤使用上の一般的な注意事項

- ① 雑草発生前～発生初期の処理が効果的なので、時期を逸しないように注意する。
- ② 雑草の発生が長期にわたるところ、多年生雑草が多いところ、効果が不十分なところでは、中期・後期除草剤と体系処理をする。
- ③ 使用時期に「移植時」が無い剤では移植時同時施用できないので注意する。
- ④ 水質汚濁防止のため、散布後7日間はたん水状態を保ち、落水、かけ流しを行わない。田植時、落水する場合は移植前7日までに散布する。現実的には代かきから7日後に田植えするのは難しい場合が多いので落水状態の田植え時混和か田植え後水を戻してから散布する。薬液が混和した田面水を7日間以上流出させないよう気をつけること。

(イ) 初期除草剤の例

農薬名 (成分)	成分数	使用量 (/10a) 使用回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>サキドリEW</b>  ブタクロール 12.0% ペントキサゾン 4.0%	2	500ml  1回	原液たん水散布：植代後～移植前7日、または移植直後～ノビエ1葉期(移植後30日まで) 植代時に原液のまま散布し混和：植代時(移植7日前まで) 田植同時散布機施用：移植時 1年生雑草：ノビエ(1), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(発生始期), ヘラオモダカ(発生前), ミズガヤツリ(発生始期), クログワイ(発生前), コウキヤガラ(発生前)	原液たん水散布または植代時に原液のまま散布し混和または田植同時散布機で施用
<b>ユニハーブ フロアブル</b>  ベンゾフェナップ 20.0% プレチラクロール 5.0%	2	500ml  1回	原液たん水散布：植代後～移植前7日 植代時に原液のまま散布し混和：植代時(移植7日前まで) 田植同時散布機施用：移植時 原液たん水散布、水口施用または無人航空機による滴下：移植直後～ノビエ1葉期(移植後30日まで) 1年生雑草：ノビエ(1), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ, ヘラオモダカ, オモダカ	原液たん水散布または植代時に原液のまま散布し混和または田植同時散布機で施用、水口施用または無人航空機による滴下

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

— 除草剤 —

農薬名 (成分)	成分数	使用量 (/10a) 使用回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<u>ダッシュワン</u> <u>フロアブル</u> ダイムロン 22.9% ペントキサゾン 3.8%	2	500ml  1回	植代時に原液のまま散布し混和：植代時(移植7日前まで) 田植同時散布機施用：移植時 原液たん水散布：植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1葉期(移植後30日まで) 1年生雑草：ノビエ(1), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(発生前～発生始期), ミズガヤツリ(発生前～発生始期), ヘラオモダカ(発生前～発生始期), クログワイ(発生前)	原液たん水散布または植代時に原液のまま散布し混和もしくは田植同時散布機で施用
<u>シング乳剤</u> ピリブチカルブ 12.0% プレチラクロール 8.0%	2	500ml  1回	原液たん水散布：植代後～移植7日前 植代時に原液のまま散布し混和：植代時(移植7日前まで) 1年生雑草：ノビエ(1), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(発生始期), ミズガヤツリ(発生始期), ヘラオモダカ	原液たん水散布または植代時に原液のまま散布し混和
	300ml (少量散布) 1回	原液たん水散布：植代後～移植前7日 移植直後～ノビエ1葉期(移植後30日まで) 植代時に原液のまま散布し混和：植代時(移植7日前まで) 1年生雑草：ノビエ(1), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(発生始期), ミズガヤツリ(発生始期)		

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

イ 中期・後期除草

(ア) 中期・後期除草剤使用上の一般的な注意事項

- ① 軟弱苗、活着不良、極端な浅植えでは薬害が出やすいので使用しない。
- ② 多年生雑草多発田では、初期除草剤との体系処理が有効である。その際、成分が重複しないようにする。

(イ) 中期・後期除草剤の例

農薬名 (成分)	成分 数	使用量 (/10a) 使用 回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<p><b>サンパンチ</b>  <u>1キロ粒剤</u>  <b>ハイカット</b>  <u>1キロ粒剤</u></p> <p>ベンゾビシクロン 2.0%</p> <p>シハロホップブチ ル 1.8%</p> <p>ジメタメトリン 1.0%</p> <p><u>ハロスルフロンメ</u>  <u>チル</u> 0.90%</p>	4	1kg  1回	<p>移植後15日～ノビエ3.5葉期（収穫60日前まで）                      1年生雑草：ノビエ（3.5）、水田1年生雑草、イボクサ（茎長20cm）、クサネム（草丈20cm）                      多年生広葉雑草：マツバイ、ホタルイ（4）、ウリカワ（4）、ミズガヤツリ（4）、ヘラオモダカ（3）、ヒルムシロ（発生期）、セリ（再生始期）、オモダカ（矢尻葉3葉期）、クログワイ（草丈30cm）、コウキヤガラ（草丈30cm）、シズイ（草丈30cm）                      多年生雑草：キシウスズメノヒエ（3）                      その他：アオミドロ・藻類による表層はく離（発生始期）</p>	<p>たん水散布                      または無人航空機による散布</p>
<p>・水の出入りを止めて、たん水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも散布後3～4日間はたん水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>・散布時の水稻の葉齢が4葉期未満の場合、薬害が発生する恐れがあるため使用を避ける。</p>				
<p><b>セカンドショット</b>  <b>SジャンボMX</b></p> <p>アジムスルフロ ン 0.36%</p> <p>ペノキスラム 0.36%</p> <p>メソトリオン 2.0%</p>	3	20 パック (500g)  1回	<p>移植後14日～ノビエ3.5葉期（収穫45日前まで）                      1年生雑草：ノビエ（3.5）、水田1年生雑草                      多年生雑草：マツバイ、ホタルイ（草丈10cm）、ヘラオモダカ（3）、ミズガヤツリ（草丈15cm）、ウリカワ（4）、クログワイ（草丈20cm）、オモダカ（矢尻葉3葉期）、ヒルムシロ（発生盛期）、セリ（再生期）、コウキヤガラ（草丈20cm）、キシウスズメノヒエ（再生茎4葉期）</p>	<p>パックのまま                      投げ入れ</p>
<p>・水の出入りを止めて水深5～6cmのたん水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常のたん水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。</p>				

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

— 除草剤 —

農薬名 (成分)	成分数	使用量 (/10a) 使用回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>レブラス</b> <b>1キロ粒剤</b> ダイムロン 10.0% テフリルトリオ ン 3.0% <u>メタゾスルフロ</u> <u>ン</u> 1.2% ジメタメトリン 1.0%	4	1kg  1回	移植後14日～ノビエ4葉期（収穫60日前まで） 1年生雑草：ノビエ(4), 水田1年生雑草 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(花茎20cm), ウリカワ(4), ミズガヤツリ(4), ヘラオモダカ(4), ヒルムシロ(生育期), セリ(再生期), クログワイ(草丈30cm), オモダカ(矢尻葉3葉期), コウキヤガラ(草丈30cm), シズイ(草丈20cm)	たん水散布または無人航空機による散布
・水の出入りを止めて、たん水状態で田面に均一に散布し、散布後少なくとも散布後3～4日間はたん水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。				
<b>クリンチャー</b> <b>1キロ粒剤</b> シハロホップブチ ル 1.8%	1	1kg 2回 1.5kg 2回	移植後7日～ノビエ4葉期（収穫30日前まで） 1年生雑草：ノビエ(4), アゼガヤ(草丈20cm) 多年生雑草：キシウスズメノヒエ 移植後25日～ノビエ5葉期（収穫30日前まで） 1年生雑草：ノビエ(5), アゼガヤ(草丈20cm) 多年生雑草：キシウスズメノヒエ	たん水散布または無人ヘリコプターによる散布
・本剤は広葉雑草には効果が無いので注意する。 ・本剤の総使用回数は2回以内。 ・キシウスズメノヒエ防除は展開葉が水面に接する条件で使用する。				
<b>バサグラン粒剤</b> ベンタゾンナト リウム塩 11.0%	1	3～4kg  1回	移植後15日～収穫45日前まで 一年生雑草：水田1年生雑草（除イネ科） 多年生雑草：マツバイ, ホタルイ(発生盛期～増殖中期), ウリカワ(発生盛期～増殖中期), ミズガヤツリ(発生盛期～増殖中期), ヘラオモダカ(発生盛期～増殖中期), オモダカ(発生盛期～発生前期), クログワイ(草丈15cm以下), シズイ(草丈10～30cm), エゾノサヤヌカグサ(1～4葉期)	落水散布または、ごく浅くたん水して散布
・イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用する。 ・本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深が浅いほど効果が安定し、深水では効果が劣る。				

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

— 除草剤 —

農薬名 (成分)	成分 数	使用量 (/10a) 使用 回数	使用時期、主な対象雑草 (カッコ内は処理葉齢・時期の範囲・限度)	使用方法
<b>2,4-Dアミン塩</b>  2,4-PAジメチル アミン塩 49.5%	1	80～120g 希釈水量 70～100L 1回	有効分けつ終止期～幼穂形成期前 (収穫60日前まで) 水田雑草 (除イネ科)	落水散布※
		60g 希釈水量 70～100L 1回	幼穂形成始期 (収穫60日前まで) 水田雑草 (除イネ科)	
<p>※あらかじめ落水し、雑草を十分露出させ、水に希釈して噴霧機などで雑草の茎葉に十分かかるように均一に散布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本剤はイネ科雑草には効果が無いので注意する。</li> <li>・本剤の総使用回数は1回。</li> <li>・散布1～2日前に落水しておき、散布機で雑草全面に散布する。散布後2～3日間は落水のままにして、かん水しない。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</li> </ul>				
<b>ウィードコア</b> <b>1キロ粒剤</b>  ベンゾビシクロ ン 2.0% ペノキスラム 0.5% フロルピラウキ シフェンベンジ ル 0.4%	3	1kg  2回	移植後7日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで) 一年生雑草：ノビエ(4)、ミズアオイ(心形葉2葉期)、アゼガヤ(草丈10cm)、水田1年生雑草 多年生広葉雑草：クログワイ(草丈20cm)、コウキヤガラ(草丈20cm)、シズイ(草丈20cm)、ホタルイ(4葉期)、ウリカワ(4葉期)、ヘラオモダカ(4葉期)、マツバイ(増殖期)、ミズガヤツリ(5葉期)、オモダカ(草丈30cm)、セリ(再生盛期)、ヒルムシロ(発生盛期)、ナガエツルノゲイトウ(草丈15cm) 多年生雑草：キシユウスズメノヒエ(再生茎2葉期)	たん水散布 または無人 航空機によ る散布
<p>・水深3～5cmのたん水状態で田面に均一に散布すること。水の出入を止めて、少なくとも3～5日間はそのままのたん水状態を保ち、田面を露出させないように注意する。散布後7日間は落水、かけ流しはしない。また、止水期間中の入水は静かに行う。</p>				

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

(8) 藻類・ウキクサ類の防除

(ア) 除草剤の例

農薬名 (成分)	成分 数	使用 回数	対象雑草、使用量(/10a)、使用時期	使用方法
<b>モゲトン粒剤</b>  ACN 9.0%	1	3回	①藻類(アオミドロ, アミミドロ), ウキクサ類: 2~3kg, 発生始~発生盛期(収穫45日前まで) ②藻類(アオミドロ, アミミドロ), 藻類による 表層はく離: 2kg, 発生時(収穫45日前まで) ③藻類による表層はく離: 1~2kg, 発生時 (収穫45日前まで) ④ヒルムシロ: 3~4kg, 発生始~増殖始 (収穫45日前まで) ⑤ウリカワ: 3~4kg, 増殖初期(2~4葉期) (収穫45日前まで)	①③④⑤ たん水散布 または無人 ヘリコプタ ーによる散 布  ②水口施用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稲が水没するような極端な深水で使用すると薬害を生じることがあるので避ける。</li> <li>・ ウキクサ類のうち、イチョウウキゴケ(イチョウモ)には効果が劣る。</li> <li>・ ウリカワでの使用は、ウリカワの水没する程度のたん水をする。</li> </ul>				

(9) 水田畦畔の雑草防除

(ア) 除草剤の例 (本欄の各除草剤の適用は水田畦畔部分の抜粋なので他作物への使用時は要確認)

農薬名 (成分)	成分 数	使用量(/10a)、使用回数	対象雑草、使用時期	使用方法
<b>ラウンドアップ マックスロード</b>  グリホサートカ リウム塩 48.0%	1	①200~1000ml ②200~500ml ③200~1000ml ④1500~2000ml 希釈水量: ①少量散布 5~25L ②③④少量散布 25~50L ②③④通常散布 50~100L 3回	①1年生及び多年生雑草: 収穫前日まで(雑草生育期) ②1年生雑草: 収穫前日まで(雑草生育期) ③多年生雑草: 収穫前日まで(雑草生育期) ④スギナ: 収穫前日まで(雑草生育期)	雑草茎葉 散布
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展着剤の加用の必要はない。</li> <li>・ 通常2~7日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。</li> <li>・ 散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。</li> </ul>				

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

農薬名 (成分)	成分 数	使用量 (/10a)、使用回数	対象雑草、使用時期	使用方法
<b>バスタ液剤</b> グルホシネート 18.5%	1	500～1000ml 希釈水量：通常散布 100～150L, 少量散布 30～40L 3回	1年生雑草及び多年生雑草： 収穫7日前まで（雑草生育期： 草丈30cm以下）	雑草茎葉 散布
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候をよく見極めて散布する。</li> <li>・ 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないようにする。</li> <li>・ 眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。</li> </ul>				
<b>ザクサ液剤</b> グルホシネート Pナトリウム塩 11.5%	1	500～1000ml 希釈水量：100～150L 3回	1年生雑草及び多年生雑草： 収穫7日前まで（雑草生育期）	雑草茎葉 散布
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 散布直後の降雨は効果を低下させる。</li> <li>・ 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないようにする。</li> <li>・ 原液は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。</li> </ul>				
<b>プリグロックスL</b> <b>毒</b> ジグワットジブ ロミド 7.0% パラコートジク ロリド 5.0%	2	①600～1000ml ②1000～2000ml 希釈水量：100～150L 5回	①1年生雑草（雑草生育期） ②多年生雑草（雑草生育期）	雑草茎葉 散布
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬用外毒物。取扱い・保管には特に注意する。</li> <li>・ 散布後効果の発現が早い。</li> <li>・ 展着剤を加用する場合には、非イオン系展着剤を使用する。</li> <li>・ 雑草の茎葉はしっかり枯らし、根は残るので畦畔の地盤が弱まりにくい。</li> </ul>				
<b>草枯らしMIC</b> グリホサートイ ソプロピルアミ ン塩 41.0%	1	①250～500ml ②500～1000ml 希釈水量：通常散布 100L 少量散布 25L 2回	①1年生雑草 ②多年生雑草 収穫14日前まで （雑草生育期：草丈30cm以下）	雑草茎葉 散布
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展着剤の加用の必要はない。</li> <li>・ 散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。</li> <li>・ 通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。</li> <li>・ 眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。</li> <li>・ 散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候をよく見極めて散布する。</li> </ul>				

<注意>

- 注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
- 注2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。
- 注3: 二重下線はSU系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。

## — 除草剤 —

グリホサートおよびグルホシネート、グルホシネート P を含む農薬は、他のグリホサートおよびグルホシネート、グルホシネート P を含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。

※グリホサートを含む農薬の総使用回数 3 回以内

※グルホシネート及びグルホシネート P を含む農薬の総使用回数 3 回以内

---

注 1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注 2: 異なる農薬名でも同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

注 3: 二重下線は SU 系成分です。使用に当たっては抵抗性発現に注意してください。